

皆さん、おはようございます。今日から、全学年がそろいました。7月19日の終業式でお話してから、約1ヵ月。短い夏でしたが、皆さんは、有意義に過ごされたことと、思います。例えば、国内外の研修に参加した人。この後、関東サイエンス研修とシンガポール研修に参加した皆さんから、プレゼンをしてもらいます。また部活動で、練習や合宿、そして大会に参加した人。部活動ブログの更新、ありがとうございます。楽しみに読ませていただいております。こちらもこの後、表彰させていただきます。もちろん、ひたすら勉強した人。まずは、この後の校内進学模試や宿題考査で、その成果を発揮してください。

さて、日本の8月は、平和を祈念する月です。6日の広島、9日の長崎、そして15日の終戦記念日。

8月17日に、四條畷高校の前身である旧制四條畷中学校の40期生の方とお話しする機会がありました。大先輩は、1942年に入学されたので、在学中は、太平洋戦争の真っ最中でした。授業の代わりに「勤労奉仕」や「勤労働員」。部活動は、「報国団」と改称され、国防訓練部として、防空班、射撃班、銃剣道班などに分かれて、訓練を行ったそうです。「学徒動員」で軍隊に入隊する人もいました。

「もっと勉強したかった」と、しみじみとおっしゃっていました。今も続く「楠の若葉」1942年発行の第41号に、当時の3年生、中学校38期生の方が、文章を寄せられています。この先輩は、勤労奉仕隊の一員として、近隣の農家の稲刈りを担当されました。「（前略）鎌を持ってやっている皆の顔には、冷風が吹く晩秋の日ではあったが、尊い汗が流れているではないか。皆が苦しいのだ、痛いのだ、この苦痛に耐えて黙々といそしむ。このけだかい畷中生の汗を見た時、自分は全く言葉に尽し難い美しいものを感じたのであります。なんと美しい姿であったでしょう。どんな苦痛にも言語に現わさず勤労する。之が鍛練だ。そして鎌をおいて休みたいと思って居た事は、どこへやら。新たなる意気が盛り上がって来て前より一層頑張りました。（後略）。」いつの時代でも、畷の生徒さんは、何事にも一生懸命取り組んでおられることに、ホントに頭が下がる思いです。でも「勉強したい」というのが、切なる願いだと思います。

1944年には、本校校舎に、大阪陸軍造兵廠の一部とNHK大阪放送局が移転。校庭には、校舎よりはるかに高い電柱が立ち、電線が張り巡らされていたそうです。また、それらの施設を守るため、当時、大阪で一番美しいと言われた白亜の校舎には、1945年4月5日からの10日間で、タールで黒色の迷彩塗装がほどこされました。後日談ですが、1953年、創立50周年に際し、再び白亜の校舎へと再塗装されましたが、雨が降ると縞模様が浮き出していました。2003年の創立100周年の大規模改修まで、その状態は、続いていました。

そして1945年8月15日に、終戦。昭和天皇の玉音放送を聞いたとき、先輩は「戦争に負けた悔しさよりも、これで普通の生活に戻って、勉強ができると思い、ホッとした。」とおっしゃっていました。74年前の今日、8月20日（月）に、当時の校長先生が、屋上で訓示を行い、8月28日（火）から、授業が再開されました。まだ中学校の時代です。1946年に最後の中学生44期生が入学。そして1948年に、四條畷中学生が編入する形で、新制高校としての四條畷高校が誕生しました。

さて、戦時下を描いたアニメは、たくさんありますが、最近では、「この世界の片隅に」。2016年11月12日の公開から、1日も途切れることなく、1,000日以上にわたって、現在も、日本のどこかで、上映が続いているそうですが、私は、ようやく8月3日のTV地上波放映で見ました。主人公のすずは、1944年、広島から、20キロ離れた町・呉に嫁ぎ、18歳で一家の主婦となりました。すずは、あらゆるものが欠乏していくなかで、日々の食卓を作り出すために工夫を凝らします。しかし、戦争は進み、海軍の基地がある呉は、幾度も空襲に襲われます。すずが大事に思っていた身近なものも、次々と奪われてゆきますが、それでもなお、持ち前の明るさと知恵で、人々と豊かに生きていく姿が描かれています。そんな中、8月6日に、広島に原爆が投下され、そして終戦を迎えました。アニメでは、何と言っても、すずのこのセリフが、印象的です。

「周作さん ありがとう この世界の片隅に うちを見つけてくれて ありがとう」

私も、こうして皆さんと出会い、平和な普通の生活を送れていることに、「ありがとう」と感謝の気持ちで一杯です。ただ、平和や自由は、永遠に続くものではありません。最近、平和を脅かすような、国と国、民族と民族、リーダーとリーダーの対立が見られます。戦争は、「他者を認めない」「答えや

方法は、これしかない」といった硬直した思考から生まれがちです。

7月19日に、お願いしたように、ぜひ皆さんには、思いっきり、頭を柔らかく、鍛えて、既成概念にとらわれず、柔軟な発想で、創造性を発揮して、課題の解決にあたってもらいたいと思います。

四條畷高校の校歌は、創立50周年を記念して、終戦から8年後の、1953年に作られました。校歌にも、「平和」の文字が出てくるのですが、何番か分かりますね。そうです。3番の後半に出てきます。私は、とりわけ、この3番の歌詞が大好きです。最後に、今日の一曲。よろしければ、ご唱和を。

若草の春を をしめと 眉もやさし 友のつどひよ  
われらおもい すこやかに  
希望の窓 ここに開き 平和の光 とはに讃えん  
四條畷 四條畷 われらをしむ 自由の学園

蛇足ですが、「をしむ」とは、「深く愛する」「大切に思う」という意味です。校歌を歌うときには、ぜひ、この歌詞に込められた平和や自由への願いを、かみしめてください。